

“聞こえる人”と“聞こえない人”がつながる 公開ワークショップを7月23日(土)に開催します

にっぽんかがくみらいかん
日本科学未来館（略称：未来館 館長：毛利衛）は、だれでもプロジェクト公開ワークショップ「STUDY3：音のクレヨンで虹を描こう-SLOW ACADEMY in 未来館」を開催します。これは、聴覚障害者と健常者がともに新たな感覚で「音」を発見していくという、異色のワークショップシリーズの一つです。多様な人々がつながり合う社会をつくるためには何が必要なのか、アートやテクノロジーを媒介に問いかける実験の場でもあります。シリーズを率いるのは、望月茂徳氏（メディアアーティスト）、高橋匡太氏（光のアーティスト）。最終回となる今回は、南村千里氏（聾の振付家・ダンサー）を講師に迎え、視覚と聴覚を含めた身体感覚を駆使しながら新しい発見を全身で体感していただきます。

今回の特色は、参加者が二手に分かれ、体を使ったダンスをする〈舞台参加者〉と、言葉や感情を投げかけ舞台と交流する〈客席参加者〉とが、一緒に「見る」「聞く」を共有することです。果たして、音を視覚で伝えることは可能なのでしょうか？ 聞こえない人に、楽器や声の音色を伝えることはできるのでしょうか？ 聞こえる人と聞こえない人がつながり、多様性を理解しあうきっかけとなることを目指します。ぜひ貴媒体にてご掲載、ご取材いただきますようお願い申し上げます。

※本イベントは、社会のさまざまな場面でバリアフリー化を後押しする活動を行う日本科学未来館「だれでもプロジェクト」の一環として開催します。

【概要】

名 称：だれでもプロジェクト公開ワークショップ

「STUDY3：音のクレヨンで虹を描こう-SLOW ACADEMY in 未来館」

開催日時：2016年7月23日（土）13：00～15：00

開催場所：日本科学未来館 7階 イノベーションホール

参加費：無料

定員および参加方法：

- (1) 舞台参加者 20名（要申込、応募者多数の場合は抽選）

※舞台上で全身を使う運動が含まれます。

※ワークショップの進行には手話通訳・要約筆者がつきます。

※SLOW LABEL公式サイトより www.slowlabel.info/join-form/ 締め切りは7月19日(火)です。

- (2) 客席参加者 50名（当日先着順。当日会場へお越し下さい）

※ワークショップの進行には手話通訳・要約筆者がつきます。

講 師：南村千里（聾の振付家・ダンサー）、望月茂徳（メディアアーティスト）、高橋匡太（光のアーティスト）

主 催：日本科学未来館、Google Field Trip Days、特定非営利活動法人スローレーベル

協 力：立命館大学映像学部望月研究室、カラーキネティクス・ジャパン株式会社

一般からのお問い合わせ先	本件に関するお問い合わせ先
日本科学未来館 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150 URL http://www.miraiKANjst.go.jp/	日本科学未来館 展示企画開発課 広報普及担当 Email: press@miraiKANjst.go.jp TEL:03-3570-9192 FAX:03-3570-9150

【講師】**■南村千里（聾の振付家・ダンサー）**

生後7ヶ月目に聴力を失い、きこえない世界へ。2012年ロンドンパラリンピック開会式に、パフォーマーとして出演。現在、フリーランス・コンセプチュアルダンスアーティストとして、ロンドンを拠点に世界20カ国40都市以上で活動中。ダンスと音とテクノロジーを駆使したプロジェクトにも取り組んでいる。

<http://chisatomimamura.com/jp/>

■望月茂徳（メディアアーティスト）

立命館大学 映像部 大学院映像研究科 准教授。ヒューマンインタフェースやインタラクティブ映像技術に「うきうき」「わくわく」「ちょっとヘン」のスパイスを交えて、身の回りの「ふつう」を「あそび」や「はっけん」に変えるようなメディアアート／インタラクティブメディアを専門分野とする。博士（工学）。IPA /独立行政法人情報処理推進機構より「天才プログラマー／スーパークリエイター」認定。<http://mochizukiss.jp/>

■高橋匡太（光のアーティスト）

光や映像によるパブリックプロジェクション、インスタレーション、パフォーマンス公演など幅広く国内外で活動を行っている。東京駅100周年記念ライトアップ、京都・二条城、十和田市現代美術館など光により建築空間をイメージに取り込みダイナミックな作品を創り出す。多くの人とともに作る大規模な参加型アートプロジェクトも数多く手がけている。<http://www.kyoto.jp/>

【だれでもプロジェクト ワークショップシリーズ これまでの開催】

「STUDY1：「音」って何？音の伝え方を考えよう-SLOW ACADEMY in 未来館」（2016年5月28日開催）

音楽や物音、「音」って耳できくだけなのかな？明るい音、暗い音って目で見えそうな感じがするし、暖かい音、冷たい音って手でさわれそう。「音」をまるで見たり触ったりすることができる装置をつかって、「音」について色んなふう感じて、伝え合う方法を実験しました。

「STUDY2：音を「見る」。音をどう演出する？-SLOW ACADEMY in 未来館」（2016年6月25日開催）

音を赤や緑、青といった色や光をつかって感じられるような装置をつかって、音を色や光で感じる部屋をつくりました。

【Google Field Trip Daysについて】

Google Field Trip Days は、2015年に始まった活動で、世界中の科学館と協力し、子どもたちが科学と親しむ機会を創出するプログラムです。開始当初には、米国と英国の13の科学館に35,000人を超える公立学校の子どものたちが招待されました。日本科学未来館で開催されたイベントでも聾学校に通う生徒の方々をはじめとする多様なゲストが招待されました。

【特定非営利活動法人スローレーベルについて】

ものづくりやアートを用いて、障害のある人となない人の出会いの場と協働の機会を創出し、相互理解を促し、また、障害のある人が自由に表現活動をすることで生きがいを見つけ、地域社会で生き生きと活躍できるようになるための支援を行っています。それらの活動により、障害のある人となない人との間の壁をなくし、あらゆる人々が居場所や役割を見出すことができるボーダレスな社会づくりを目指します。 <http://www.slowlabel.info/>

【日本科学未来館「だれでもプロジェクト」について】

第一線の研究者やクリエイターとの連携により、社会のさまざまな場面でのバリアフリー化を後押しする活動をおこなう日本科学未来館のプロジェクト。知識や創造性をもった専門家が垣根を越えて交流することにより、多様性を理解しあい豊かな社会に向かうきっかけをつくっていくのが、このプロジェクトのミッションです。